

## 第4学年B組 総合的な学習の時間学習指導案

授 業 者 渡部 和朝  
研究協力者 細川 和仁

- 1 単元名 きらり みんなの笑顔があふれるまちⅡ  
～みんなが笑顔になるために よりよい関わり合いを求めて～

### 2 子どもと単元

#### (1) 子どもについて

子どもたちは、3年生の総合的な学習の時間「笑顔いっぱいのもち秋田市のたからもの」において通町商店街の活性化に向けて努力する人々の思いについて学習した。この活動を通して、お客様の気持ちを一番に考えて接することの大切さを知るとともに、コロナ禍の状況にあっても親身になって自分たちに協力する人々の優しさを実感することができた。さらに、障がい者理解に関わる学習（よつば学習Ⅰ・Ⅱ）を通して、自分や相手の得意なことや苦手なことを知った上で関わり合うことの大切さに気づき、自分とは異なる特徴のある人に対してどのように接していけばよいのかも考えるようになっていく。

しかしながら、様々な特徴のある人と触れ合った経験をあまりもっていないためその認識は浅く、そのような人たちの思いや願いに触れ、相手の立場に立ったものの見方や考え方をすることについて十分とは言えない。また、探究的な学習の過程においては、自分で取り組むべき課題について、意欲的に情報を集める姿は見られるものの、比較・分類して傾向を読み取ったり、他者との相互交流による振り返りを通して、新たに調べることを見いだしたりするまでには至っていない。

#### (2) 単元について

子どもの多くが、自分とは異なる特徴のある人を「大変そう、助けてあげたい」というように特別視している実態を踏まえ、「人は皆、大小問わず困難を抱えており、それを乗り越えようと、互いを思い、支え合って生きていくという意味で対等な存在である」という考えをもてるようにすることを本単元のねらいとしている。

本単元の前半では、福祉について調べる活動や疑似体験、点訳ボランティアの方の話を聞くことを通じて、正しい知識をもつことができるようにする。後半では、これまで学習してきたことよさや確かさを実感できるように、特別支援学校の仲間との交流に向けて学習を進める。初めに、特別支援学校の先生の話の聞き、4人の子どもについて知る機会を設ける。さらに、実際の様子に触れるために、事前に2つのグループとミニ交流をし、交流の様子をビデオで見たり、体験した子どもからわかば学級の4人の様子を聞いたりする。このことを通じて、共に楽しむために必要なことに気付くことができるようにする。交流計画を見直したり、実際に交流をしたりすることで、支援は相手の必要性やその場の状況に応じて相互に行うものであることに気づき、相手を尊重する態度を育むことが期待できる。最後に、体験を通して考えたことや人とよりよく関わり合うために必要なことについての意見交流を通して、様々な感じ方や考え方があり、相手が誰であっても、その人の立場に立って考えることの大切さや共に生きていくことよさに気付くことができるようにする。

これらの学習活動を通して、誰もが自分の個性を生かし積極的に参加、貢献していく共生社会を生きていく子どもたちに求められる「仲間のよさを見付け、互いのよさを活かしながら活動する」という資質・能力を高めることを目指す。

#### (3) 指導について

本単元で育む資質・能力を高めるために、自分と相手の思いの違いに着目し、得意なことや安心する関わり合いについての共通点を踏まえながら、共に活動するためのよりよい方法を見いだすという「見方・考え方」を単元を通して働かせる。

さらに、研究の重点(1)との関連から、今までに身に付けた資質・能力や各教科の「見方・考え方」を機会を捉えて確認し、単元を通して活用できるようにする。

「課題の設定」では、子どもたちが抱えている「人には優しくしたい」という願いと点字ボランティアの方や特別支援学校の先生から聞いて分かった「できることは自分の力でやりたい」という相手の思いとの「ずれ」に着目し、「共に楽しむ活動にするには、どうすればよいか」という問いをもてるようにする。その際、社会的事象の見方・考え方をを用い、子どもたちがもっている福祉に関する情報を分類したり関連付けたりしながら、自分で課題を立てられるようにする。さらに、3年生の教師による助言や外部講師の話の基に、新たな課題を見いだせるようにする。

「情報の収集」では、本、資料、施設見学、インタビュー、インターネットなどの方法を提示し、調べる方法や順番を自ら選択・決定して進める。また、情報交換の場を設定し、自分ではもち得なかった情報を集められるようにする。

「整理・分析」では、整理については、クラゲチャートとピラミッドチャートから選択して情報を整理し、関連付けたり要約したりできるようにする。分析については、学習支援ソフトを活用して、思考ツールに整理したものを見合う活動を設定する。そして、互いに支え合って生きていくにはどのようにすればよいかという視点から、互いの情報を比較したり組み合わせたりして、新しい考えを見付けることができるようにする。

「まとめ・表現」では、わかば学級との交流会の計画を立てて実践できるようにする。調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめ、クラスの中で発表し合う際は、研究の重点(2)との関連から、仲間からのアドバイスを基に、伝える3年生にとって本当に必要な情報かどうかを吟味する省察の場を設け、よりよいものにした上で発表する機会を設定する。また、「人とよりよく関わり合うために必要なこと」について繰り返し見つめ直し「相手をよく知り、その人ができることや状況に応じて行動する」という概念を形成することで、探究的な学習のよさにも気付くことができるようにする。

- 3 単元目標〈記号は本校の資質・能力表による〉
- (1) 人は誰もが困難を抱えており、それを乗り越えるために互いを思い、支え合って生きていく、かけがえのない存在であるという考えをもつことができる。〈A-a, D-a〉
  - (2) 自分と相手の思いの違いに着目し、自分とは異なる特徴のある人と共に楽しむための交流計画を考えたり、改善点を見いだしたりすることができる。〈B-e, D-b〉
  - (3) 自分とは異なる特徴のある人についての見方や考え方を広げることを通して、人とよりよく関わり合うために必要なことを考え、今までの生活を見つめ直そうとしている。〈C-c, D-d〉

4 単元の構想（総時数45時間）※選択・決定を通して、自律的に学習を進めるための支援

笑顔いっぱいのまち秋田市のたからもの（3年）

・お客様の気持ちを一番に考える大切さ ・親身になって自分たちに協力してくれる人々の優しさ

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1 2	(1) これまでのはばたき学習の様子や身に付けた力を確認する。 ・情報の集め方やまとめ方が分かるよ。	・これまでに身に付けた資質・能力が確認できるように、3年生時のはばたき学習を通してできるようになったことを想起する場を設定する。	・身に付けた資質・能力を自覚し、今後の活動に活かそうとしている。〈D-d〉
3 4	(2) 実生活の中から福祉についての問いを見だし、課題を立てる。 ・福祉は多くの人々の幸せのためにあることが分かった。 ・障がいのある人に関わる人、もの、ことについて詳しく調べよう。	・「附属小学校の周りがある『やさしさ』」について意見交流をする活動を通して、「福祉」についての考えを広げ、必要感のある問題として捉えることができるようにする。 ・自分で課題を立て、主体的な課題解決につながるよう、人、もの、ことの視点で具体的な例を示し、個々に課題を選択できるようにする。	・身近にある様々なやさしさを見付け、福祉の大切さに気付いている。〈A-a〉 ・課題を設定するための大切な情報を選択している。〈B-e〉
5 6 7 8 9 10 11	(3) 課題に応じて、調べ学習を進める。 ・障がいのある人に、どのような声を掛けるとよいのだろう。 ・点字や車いすについても詳しく調べてみたい。 ・クラゲチャートを使って整理しよう。	・調べたことから特に伝えたいことを見いだせるように、必要な思考ツールを選択して、分かったことや疑問について整理する活動を取り入れる。 ・人、もの、ことの視点に関連付けて考えることができるように、課題が異なる仲間と情報交換する場を設ける。	・追究するための計画を立てて調べている。〈C-c〉 ・課題に応じた様々な収集方法で情報を集め整理している。〈B-e〉
12 13	(4) 調べていることについて、更に追究したい課題を見付ける。 ・ピクトグラムについて、夏休みに調べよう。	・情報交換で得た疑問から新たに生まれた自分の課題を追究するために、課題や調べる方法を整理する学習シートを準備し、調べ方を助言する。	・仲間との情報交換を通して、新たな気付きや疑問などを捉えている。〈B-e〉
14 15 16 17 18 19	(5) 今後の見通しを確認し、調べたことをまとめる。 ・あまり情報を入れず今まで学習してきたことを簡潔にまとめよう。 ・調べて分かったことと調べ方も伝えと3年生に役立ちそう。	・聞き手の3年生の思いを想像し、分かりやすく伝えることができるように、どうすればうまく伝わるのかを問う。 ・「相手をよく知り、その人の必要性や状況に応じて、できることを実行する」という概念の形成につながるよう、よりよく関わり合うための自分の考えを入れるように助言する。	・調べたり考えたりしたことを、各教科で培った力を生かしながらまとめていく。〈B-e〉
20 21	(6) 体験活動を通してお年寄りや体の不自由な人の気持ちについて考える。 ・よりよく関わり合うためには、自分の思い付きだけで判断してはだめだ。	・同じ行動をしたり、サポートをしてもらったりしても、人それぞれ感じ方が違うことに気付くことができるように、高齢者疑似体験セットや車椅子を準備し体験をする。	・体験したことを基に、今までの自分の考えを見つめ直そうとしている。〈D-d〉

○本単元の学習活動で働かせたい見方・考え方や安心する関わり合いについての共通点を踏まえながら、共に活動する

22 23	(7) 相手に伝わるようにスライドを見直す。 ・3年生に1スライド1メッセージで説明しよう。	・自分の発表の仕方が3年生にも伝わるか、アドバイスし合う場を設ける。	・情報を簡潔に伝えることを意識しながら、まとめたことを見直している。〈B-e〉
24 25 26	(8) 今までに学んだことを発表する。 ・言葉を換えて、もう一度説明しよう。	・周りの人や教師の反応を見て、よく理解していないと感じたときは、適宜確かめながら説明するように助言する。	・調べたことや自分の考えを分かりやすく伝えている。〈C-c〉
27 28 29 30	(9) 更に調べる必要のある課題を設定して調べる。 ・共に楽しむためには、まず、知ることが大切だ。	・わかば学級の仲間と共に楽しむためには、正しい知識が必要だと気付けるように、3年生の先生からのアドバイスを想起する場面を設ける。	・課題を立てて調べ、情報を整理している。〈B-e〉
31 32	(10) 様々な特徴のある人について話を聞く。 ・うれしいことは、私たちと似ているんだな。	・うれしいことは、誰しも共通していることが理解できるように、外部講師と打ち合わせをし、伝える内容を確認する。	・様々な特徴のある人とのよりよい関わり合い方を考えようとしている。〈D-b〉
33 34	(11) わかば学級の仲間のことを知り、交流計画を立てる。 ・情報を基に考えよう。	・相手を意識した交流のために、よつば学習で得たわかば学級の仲間の情報を基に計画を立てるように助言する。	・仲間と協力しながら、企画のルールを考えている。〈C-c〉
35 36 37	(12) わかば学級の仲間との交流計画を見直す。 ・「自分で選ぶ機会があるか。」の視点で見ると、	・共に楽しむための見直す視点を見付けられるように、事前交流のビデオを見て、話し合う場を設定する。	・共に楽しむための見直す視点を基に、改善点を考えている。〈C-c〉
38 本時	的当てグループを見直すことが、僕たちの今後の計画を考える上で最もいいね。	・視点に沿った改善点を見付けられるように、本時で話し合うグループの企画を事前に体験し、改善点を短冊に書く活動を設ける。	・根拠をもって、共に楽しむ交流にすることを見直している。〈C-c〉
39 40	・Bさんは、自由に色をぬることができると思うから、それも選ぶことができるようにしましょう。	・自分たちのグループの活動をよりよく見直せるように、一人一人楽しいと感じる理由が違うことを意識して改善するように助言する。	
41	(13) わかば学級の仲間と交流をする。 ・共に楽しめているか、様子を見ながら進めよう。	・共に楽しめる交流になるように、必要に応じてわかば学級の先生からアドバイスをもらうよう助言する。	・必要に応じてルールを変えたり助け合ったりして活動している。〈C-c〉
42 43	(14) 交流をして分かったことや大切にしていきたいことについて意見を伝え合う。 ・〇〇さんの考えは、僕の考えとは少し違うな。	・様々なものの見方や感じ方・考え方に触れるために、一人一人の考えを伝え合い、自分の考えを省察する場を設定する。	・共に楽しむために必要なことについての他者の考えに聞き、自分の考えを見直そうとしている。〈D-a〉
44 45	(15) 人とよりよく関わり合うために必要なことをまとめ、これまでの活動を振り返る。 ・相手のことをよく知り、その人の必要性や状況に応じて、できることを実行するのが大切だ。 ・学んできたことを3年生に伝え、今後の自分の行動にも生かしていこう。	・よりよく関わり合うために必要なことについて概念化できるように、これまでに実行してきたことや考えたことなどについて選択した思考ツールに整理する活動を設定する。 ・学んだことの価値や身に付いた資質・能力に気付くことができるように、課題をどう乗り越えてきたかについて、3年生に伝える場を設定する。	・よりよく関わり合うために必要なことを見付けようとしている。〈D-b〉 ・学習する前の自分との違いに気付く、今までの生活を見つめ直そうとしている。〈D-d〉

**◎本単元で育む主な資質・能力**  
仲間のよさを見付け、互いのよさを活かしながら活動する (D-b)

↓  
ありがとうを伝えよう I～今までの自分 そして未来へ～

5 本時の実際 (38/45)

(1) ねらい 自分と相手の思いの違いに着目し、一人一人が考えた見直したい点を整理したり、選ぶ意味を見つめ直したりする活動を通して、根拠をもって共に楽しむためにできることを見直すことができる。 (C-c)

(2) 展開

○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
5分	<p>① 共に楽しむAさんの特徴を確認し、本時の課題を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aさんは、とてもまじめで最後までやり通す性格だ。</li> <li>・ Aさんは、好奇心も旺盛で、人の話もよく聞けそうだよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時は、相手意識をもって企画を見直していく時間であることを意識付けるために、的当てが好きなAさんの特徴について、全体で確認する。</li> </ul> <p>共に楽しむための視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aさんも自分も楽しむ。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">                     課題 Aさんも自分も楽しむためには、どの改ぜん点がよいだろうか。                 </div>		
30分	<p>② 的当てグループが考えた企画の改善点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投げる位置は、もっと近くすればいいと思います。理由は、近い方がAさんが倒しやすいからです。</li> <li>・ 投げる位置は、近くから遠くまで3種類くらいあればいいと思います。理由は、3種類あれば、Aさんも選べるし、私も選べて、どちらも楽しいからです。</li> <li>・ Aさんも自分も倒したいキャラクターを選べれば、楽しみながら活動できるからです。</li> <li>・ 人はそれぞれ、楽しいと思うことが違うからです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手を意識した話し合いになるように、意見を分類したり理由を確認したりしながら、見直したことで本当にAさんも自分も楽しむことができるのかを問う。</li> <li>・ Aさんも自分も楽しむことができるという見直しの共通点に気付くことができるように、中身が違うものを取り上げ、なぜこのような改善点が多く出てきたのか理由を問う。</li> </ul> <p>○楽しさの感じ方は人によってそれぞれ違うという気付きがもてるように、なぜ選ぶ機会のあることが、大切な工夫なのかを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども同士で異なる意見を組み合わせ、よりよい考えをもつことができるように、小グループで話し合う場を設定し、Aさんも自分も楽しむことのできる理由を共有できるようにする。</li> </ul>
10分	<p>③ 自分たちのグループの計画で、共に楽しむために見直したいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dさんが楽しめるように、車をじっくり選べるように種類を増やそう。</li> <li>・ Bさんは活発だから、自由に色を付けることのできるぬり絵を準備しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時で学んだことの価値を自覚することができるように、自分たちの計画で見直したいこととその理由についてグループで話し合い、シートに書き込む活動を設定する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>楽しさの感じ方は人によってそれぞれ違うということを根拠にして、共に楽しむためにできることを見直している。 (C-c) (発言・シート)</p> </div>